

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2014 年 8 月 28 日(28.08.2014)



(10) 国際公開番号

WO 2014/129240 A1

- (51) 国際特許分類:
A61K 8/81 (2006.01) *A61Q 1/10* (2006.01)
A61K 8/34 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2014/050789
- (22) 国際出願日: 2014 年 1 月 17 日(17.01.2014)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2013-030395 2013 年 2 月 19 日(19.02.2013) JP
- (71) 出願人: 株式会社 資生堂(SHISEIDO COMPANY, LTD.) [JP/JP]; 〒1040061 東京都中央区銀座七丁目 5 番 5 号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者: 千葉 桐子(CHIBA, Kiriko); 〒2248558 神奈川県横浜市都筑区早渕 2-2-1 株式会社資生堂リサーチセンター(新横浜)内 Kanagawa (JP).
- (74) 代理人: 内田直人(UCHIDA, Naoto); 〒1010051 東京都千代田区神田神保町 1-3-7-4 友田三和ビル 302 ウインググリーン特許事務所 Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).
- 添付公開書類:
— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

(54) Title: EYELASH COSMETIC

(54) 発明の名称: 睫毛用化粧料

(57) Abstract: Provided is an emulsion-type eyelash cosmetic (mascara) which can minimize the clogging of a comb without lowering the curling power, which exhibits excellent voluminousness and smoothness in use, and which is removable with hot water. This eyelash cosmetic is characterized by containing (a) 20 to 30 mass% of an alkyl acrylate copolymer emulsion, (b) 3 to 6 mass% of a moisturizing agent and (c) 0.1 to 0.4 mass% of a polyacrylic acid salt. It is preferable that the cosmetic further contains (d) 0.5 to 6 mass% of a water-soluble substance.

(57) 要約: 乳化タイプの睫毛用化粧料(マスカラ)であって、カール力を低下させずにコームの目詰まりを抑制でき、良好なボリューム感、なめらかな使用感が得られ、なおかつお湯で落とすことができる化粧料を提供する。本発明の睫毛用化粧料は、(a) 20～30質量%のアクリル酸アルキル共重合体エマルジョン、(b) 3～6質量%の保湿剤、及び(c) 0.1～0.4質量%のポリアクリル酸塩、を含有することを特徴とする。さらに、(d) 0.5～6質量%の水溶性物質を含むのが好ましい。



WO 2014/129240 A1

明 細 書

発明の名称： 睫毛用化粧料

技術分野

[0001] 本発明は、睫毛用化粧料に関する。特に、コーム型の塗布具での使用に適した乳化タイプのマスカラ組成物であって、カール力及び使用感に優れ、お湯で落とすことが可能なマスカラ組成物に関する。

背景技術

[0002] マスカラは、睫毛を太く長くしたりカールさせたりすることにより目元を印象的に演出することのできる主要なアイメーキャップ化粧料である。マスカラには、揮発性の油分にワックス、樹脂、色材等を分散させた油性タイプと、樹脂や色材等を水性成分に乳化分散した乳化タイプとがある。

[0003] 油性タイプのマスカラは、溶剤揮発後に形成される皮膜によって睫毛の形状を強固に整えることができるが、その皮膜を落とすには溶剤を主成分とするリムーバー（除去液）が必要となる。

一方、水中油型の乳化タイプでは、耐水性がありながら、リムーバーを用いずにお湯で簡単に落とせるマスカラが販売され人気を集めている。例えば、特許文献1には、ポリビニルアルコール、(メタ)アクリル酸アルキルを構成単位として含む重合体、N-ビニルピロリドンを含む共重合体を含有する乳化タイプの睫毛用化粧料が記載され、優れた化粧効果の持続性（汗などに対する耐水性を含む）を持ちながら、水でも容易に落とすことができるとされている。

[0004] 水中油型の乳化タイプマスカラは、一般的にアクリル系のモノマーを主成分とする樹脂エマルジョンが皮膜形成成分として配合され、塗布後に乾燥して耐水性の皮膜を形成する。お湯（又は水）で容易に落とすことのできるマスカラでは、さらに水溶性高分子等の水溶性物質を配合するが、この場合、当該水溶性物質が樹脂皮膜中に封入されるため、お湯に接触することで樹脂皮膜が膨潤して緩み、睫毛から剥離しやすくなると考えられている。

[0005] マスカラは、通常、ブラシ型あるいはコーム（櫛）型の塗布具を用いて睫毛に塗布される（例えば、特許文献2参照）。ブラシ型の塗布具は、睫毛の一本一本にマスカラ液が繊細に絡みつき、ふくよかな感じを与えるとされており、従来の乳化タイプのマスカラにはブラシ型の塗布具が用いられていた。

これに対してコーム型の塗布具は、睫毛を根本からとかし上げ、艶やかな長さとボリュームを与えるとされ、液づきが良くボリューム感に優れ、睫毛を櫛で梳かしたようなセパレート感が得られるといった特徴を有する。

先行技術文献

特許文献

[0006] 特許文献1：特開2006-257052号公報

特許文献2：国際公開第WO2009/084343号

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0007] しかし、従来の水中油型の乳化タイプのマスカラにコーム型塗布具を用いてボリューム感やセパレート感を得ようとする、塗布後にわずか数分間放置しただけでコームの目詰まりが生じてしまうという問題があった。

マスカラに配合する樹脂エマルジョンの量を減量することにより目詰まりは或る程度抑制されるが、十分なカール力が得られなくなる。一方、樹脂エマルジョン量を変えずにカール力を維持し、保湿剤を増量することによっても目詰まりは抑制されるが、塗布後の乾きが遅くなるという使用性の問題が生じる。

また、コーム型塗布具の櫛歯間隔（ピッチ）を広げることによっても目詰まりは減少するが、コーム型塗布具の特徴であるセパレート効果が得られ難くなる。

[0008] よって本発明は、コーム型塗布具での使用に適した乳化タイプの睫毛用化粧料（マスカラ）であって、カール力を低下させずにコームの目詰まりを抑

制でき、良好なボリューム感、なめらかな使用感が得られ、なおかつお湯で落とすことができる睫毛用化粧料を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0009] 上記の課題を解決すべく、本発明者等は鋭意研究を行った結果、樹脂エマルジョンを含有し、お湯で落とせる乳化タイプのマスカラにポリアクリル酸塩を配合することにより、コーム型塗布具で使用しても目詰まりを生じず、コーム型に特徴的なボリューム感及びセパレート感のある睫毛メーカーキャップが実現できることを見出し、本発明を完成するに至った。

[0010] 即ち本発明は、

- (a) 20～30質量%のアクリル酸アルキル共重合体エマルジョン、
- (b) 3～6質量%の保湿剤、及び
- (c) 0.1～0.4質量%のポリアクリル酸塩、

を含有することを特徴とする睫毛用化粧料を提供する。

発明の効果

[0011] 本発明の睫毛用化粧料は、優れた睫毛カール力を発揮するのに十分な量のアクリル酸アルキル共重合体エマルジョンを含有していながら、所定量の保湿剤及びポリアクリル酸塩を配合することによりコーム型塗布具に目詰まりを生じない。さらに、なめらかな使用感で乾きも早く、睫毛に良好なボリューム感を与えることができるとともに、お湯で容易に洗い落とすことが可能である。

発明を実施するための形態

[0012] 以下、本発明について詳細に説明する。

- (a) アクリル酸アルキル共重合体エマルジョン

本発明で用いられるアクリル酸アルキル共重合体エマルジョン（成分a）は、アクリル酸又はメタクリル酸のアルキルエステルを主成分とするコポリマーのエマルジョンであり、例えば、メタクリル酸メチル、アクリル酸2-エチルヘキシル及びメタクリル酸からなるコポリマー、メタクリル酸、アクリル酸ブチル及びアクリル酸2-エチルヘキシルからなるコポリマー、アク

リル酸アルキル/スチレン共重合体等のエマルジョンであってもよいが、特に、表示名称「アクリル酸/アクリル酸アルキル共重合体」のエマルジョンが好ましい。

[0013] エマルジョンを構成するアクリル酸アルキル共重合体は、特に限定されないが、 -20°C ～ 100°C 、好ましくは -5°C ～ 70°C のガラス転移点を持つポリマーが好ましく用いられる。エマルジョンは、1種のアクリル酸アルキル共重合体のみを含んでいても、2種以上の異なるアクリル酸アルキル共重合体を含んでいてもよい。

エマルジョン中のアクリル酸アルキル共重合体（樹脂）の実分は特に限定されないが、通常はエマルジョンの20～70質量%、好ましくは40～60質量%程度である。

[0014] 本発明では、アクリル酸アルキル共重合体エマルジョンとして市販品を使用することができ、例えば、ヨドゾールGH34F、ヨドゾールGH810（アクゾノーベル（株）製）、ダイトゾール5000A-S（大東化成工業（株）製）、ダッシュコートCG-1（大東化成工業（株）製）等を代表例として挙げることができる。

[0015] 本発明の化粧料におけるアクリル酸アルキル共重合体エマルジョンの配合量は、20～30質量%、好ましくは22～28質量%であり、アクリル酸アルキル共重合体樹脂の実分としては5～15質量%、好ましくは8～12質量%である。

[0016] (b) 保湿剤

本発明の化粧料に配合される保湿剤（成分b）としては、化粧料等に通常配合されているものであってよく、特に限定されない。

例えば、ジプロピレングリコール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ポリエチレングリコール400、グリセリン等を挙げることができる。

[0017] 本発明の化粧料における保湿剤（成分b）の配合量は、アクリル酸アルキル共重合体エマルジョン（成分a）の配合量との比が、 $b : a = 1 : 3 \sim 1$

： 8、好ましくは 1：4～1：7、より好ましくは約 1：5 となるように調整する。具体的な配合量としては、3～6 質量%、好ましくは 4～6 質量%である。保湿剤の配合量が 3 質量%未満であると、コームの目詰まりが起これやすくなり、6 質量%を越えて配合すると塗布後の乾きが遅くなり使用性が悪化する傾向がある。

[0018] (c) ポリアクリル酸塩

本発明で用いられるポリアクリル酸塩（成分 c）は、化粧品や医薬部外品などに水溶性増粘剤として配合され得るポリアクリル酸の塩、例えばナトリウム塩、カリウム塩等のアルカリ金属塩あるいはアンモニウム塩等である。ポリアクリル酸塩の分子量は特に限定されないが、好ましくは 100 万～600 万程度の分子量を有するものが用いられる。

[0019] 本発明で用いられるポリアクリル酸塩は市販品であってもよく、例えば、完全中和物（ナトリウム塩）としては、アロンビス SX（分子量 400 万～500 万）、アロンビス MX（分子量 200 万～300 万）等が挙げられ、部分中和物としてはアロンビス AHX 等が挙げられる（いずれも、東亜合成（株）製）。

[0020] 本発明の化粧品におけるポリアクリル酸塩の配合量は、0.1～0.4 質量%、好ましくは 0.15～0.3 質量%である。ポリアクリル酸塩の配合量が 0.1 質量%未満であると、コームの目詰まりが起これやすくなり、0.4 質量%を越えて配合すると塗布後の乾きが遅くなり使用性が悪化する傾向がある。

[0021] 本発明の睫毛用化粧品はお湯で洗い落とせるタイプの化粧品であり、前記の必須成分（a～c）に加えて、（d）水溶性高分子（ポリアクリル酸塩以外）等の水溶性物質を配合することができる。

水溶性高分子としては、ポリビニルアルコール（PVA）等の合成水溶性高分子、アラビアガム、トラガカントガム、ガラクトン、グアガム、キャロブガム、カラヤガム、カラギーナン、ペクチン、カンテン、クインスシード（マルメロ）、アルゲコロイド（カッソウエキス）、デンプン（コメ、トウモロコ

シ、バレイショ、コムギ)、グリチルリチン酸、キサンタンガム、デキストラン、サクシノグルカン、ブルラン、コラーゲン、カゼイン、アルブミン、ゼラチン等の天然水溶性高分子、カルボキシメチルデンプン、メチルヒドロキシプロピルデンプン、アルギン酸ナトリウム、アルギン酸プロピレングリコールエステル等の半合成水溶性高分子等が挙げられる。

水溶性物質の配合量は、好ましくは0.5～6質量%、より好ましくは1～5質量%である。配合量が6質量%を越えると、塗布後の乾きが遅く使用性が低下する。

[0022] さらに、睫毛用化粧料、特にマスカラに通常配合され得る他の任意成分を、本発明の効果を阻害しない範囲で含有することができる。具体例としては、粉末成分、液体油脂、固体油脂、ロウ類、炭化水素油、高級脂肪酸、高級アルコール、エステル油、シリコーン油、アニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤、両性界面活性剤、親油性非イオン界面活性剤、親水性非イオン界面活性剤、増粘剤、金属イオン封鎖剤、低級アルコール、緩衝剤、酸化防止剤、防腐剤、消炎剤、各種抽出物、賦活剤等が挙げられるが、これらに限定されない。

[0023] 本発明の睫毛用化粧料は、乳化タイプのマスカラに通常用いられる方法に従って製造することができる。簡潔に言えば、油相成分を約90℃に加熱して均一に混合して油相Aとし、水相成分及び樹脂エマルジョンを室温で均一に混合して水相Bとし、油相Aを攪拌しながら水相Bを添加して乳化させ、室温まで冷却することにより調製できる。

[0024] 本発明の睫毛用化粧料は、コーム型塗布具を用いて塗布するのに特に適している。

コーム型塗布具とは、一般に、円柱状又は多角形柱状等の軸部を有し、軸部の一端に把持部、他端にコーム部を具備している。コーム部は、軸部に垂直に複数の突起片（櫛歯）を配列した形状をなしている（例えば、特許文献2の図4、特開2011-4804号公報の図2等を参照）。

[0025] 本発明の睫毛用化粧料は、特にコーム型塗布具を用いて適用することによ

り、従来の乳化タイプの睫毛用化粧料（マスカラ）では得られ難かったボリューム感及びセパレート感が達成でき、なおかつ、カール力を低下させずにコームの目詰まりを抑制できる。

よって本発明は、本発明に係る睫毛用化粧料、当該化粧料を収容する容器、及びコーム型塗布具を含む睫毛用化粧キットも提供する。

実施例

[0026] 以下、具体例を挙げて本発明を更に詳細に説明するが、これらは本発明の技術的範囲を何ら限定するものではない。なお、以下の実施例等における配合量は特記しない限り質量％である。

[0027] 下記表 1 ～ 4 の各例に記載の組成で乳化タイプのマスカラ組成物を調製した。

各例で得られたマスカラ組成物について、専門パネル 10 名によりコーム型塗布具を用いた実使用試験を実施した。具体的には、各例のマスカラ組成物を各パネルの睫毛に適用し、睫毛のカール力、液付きのよさ（ボリューム感）、なめらかさ、睫毛上での乾きの早さを下記の基準に従って評価した。

[0028] <評価基準>

（１）「カール力」「液付きのよさ（ボリューム感）」「なめらかさ」について

◎：優れていると評価したのが 10 名中 7 名以上。

○：優れていると評価したのが 10 名中 5 名以上 7 名未満

△：優れていると評価したのが 10 名中 3 名以上 5 名未満

×：優れていると評価したのが 2 名以下

[0029] （２）「乾きの早さ」について

○：適度な早さで乾くので使用性良好

△（早い）：塗布後の乾きが早くて使用しにくい

△（遅い）：塗布後の乾きが遅くて使用しにくい

×（遅い）：塗布後の乾きが遅すぎて製品として使用できない

[0030] 次いで、各例のマスカラ組成物の適用に使用したコーム型塗布具を室温で

放置した後の目詰まりについて、以下の基準に従って評価した。

<評価基準>

○：目詰まりを起こさず、そのまま再使用できた。

△：目詰まりが生じたが、簡易な処理で除去できた。

×：目詰まりを生じて再使用が出来なかった。

[0031] [表1]

		実施例 1	実施例 2	実施例 3	比較例 1
水相	精製水	残余	残余	残余	残余
	デヒドロ酢酸ナトリウム	適量	適量	適量	適量
	モノステアリン酸ホリオキシエチレンソルビタン	1	1	1	1
	脱泡剤	適量	適量	適量	適量
	分散剤	適量	適量	適量	適量
	酸化鉄	10	10	10	10
	1,3-ブチレングリコール	5	5	3	3
	パチルアルコール	1	1	1	1
	ホリアクリル酸ナトリウム(*)	0.2	0.2	0.3	0.5
	イソプロピルアルコール	3	3	3	3
	フェノキシエタノール	適量	適量	適量	適量
	ヘントナイト	3	3	3	3
	PVA	1.5	5	—	—
樹脂エマルジョン	アクリル酸アルキル共重合体(**)	25	20	20	20
油相	ショ糖脂肪酸エステル	10	10	10	10
	マイクロクリスタリンワックス	10	10	10	10
	カルバロウ	1	1	1	1
	ステアリン酸ソルビタン	1	1	1	1
	水添ホリイソブテン	2	2	2	2
合計		100	100	100	100
目詰まり		○	○	○	○
カール力		○	◎	○	○
液付きのよさ(ホリューム)		○	○	○	○
なめらかさ		○	○	○	○
乾きの早さ		○	○	○	× (遅い)

(*) アロンビス (東亜合成(株)製)

(**) ヨドゾールGH34F (アクゾノーベル(株)製)

[0032] 表1に示した結果から、アクリル酸アルキル共重合体エマルジョン(成分a)、保湿剤(成分b)及びポリアクリル酸塩(成分c)を所定量配合することにより、評価した全ての項目について満足できる結果が得られた(実施例1～3)。また、従来のお湯で落とせるマスカラに配合されていたPVA

を配合しない実施例3の組成物も、ポリアクリル酸塩を含有していることによりお湯で容易に落とすことが出来た。しかしながら、ポリアクリル酸塩の配合量が0.4質量%を越えると塗布後の乾きが遅くなり使用性が低下した（比較例1）。

[0033] [表2]

		比較例 2	比較例 3	比較例 4	比較例 5
水相	イオン交換水	残余	残余	残余	残余
	デヒドロ酢酸ナトリウム	適量	適量	適量	適量
	モノステアリン酸ポリオキシエチレンソルビタン	1	1	1	1
	脱泡剤	適量	適量	適量	適量
	分散剤	適量	適量	適量	適量
	酸化鉄	10	10	10	10
	1,3-ブチレンジオール	3	3	3	3
	バチルアルコール	1	1	1	1
	ポリアクリル酸ナトリウム(*)	—	—	—	—
	イソブチルアルコール	3	3	3	3
	フェニシエタノール	適量	適量	適量	適量
	ベントナイト	3	3	3	3
	PVA	1.5	1.5	1.5	1.5
樹脂エマルジョン	アクリル酸アルキル共重合体(**)	15	20	25	30
油相	ショ糖脂肪酸エステル	10	10	10	10
	マイクロクリスタリンワックス	10	10	10	10
	カルナバロウ	1	1	1	1
	ステアリン酸ソルビタン	1	1	1	1
	水添ポリイソブテン	2	2	2	2
合計		100	100	100	100
目詰まり		○	△	×	×
カール力		×	△	○	◎
液付きのよさ(ボリューム)		△	△	△	△
なめらかさ		◎	○	△	×
乾きの早さ		○	○	△ (早い)	△ (早い)

(*) アロンビス（東亜合成(株)製）

(**) ヨドゾールGH34F（アクゾノーベル(株)製）

[0034] ポリアクリル酸塩を配合しない場合、従来の乳化タイプマスカラに相当する比較例3よりアクリル酸アルキル共重合体の配合量を減らすと目詰まりは防止できたが十分なカール力が得られない（比較例2）、逆に、アクリル酸アルキル共重合体の配合量を増加させるとカール力は向上するが目詰まりを生じ易くなり、塗布後の乾燥が早くなりすぎ、なめらかさに欠けて使用性が

低下した（比較例 4 及び 5）。また、表 2 の全ての例で優れたボリューム感
は得られなかった。

[0035] [表3]

		比較例 3	比較例 6	比較例 7	比較例 8	比較例 9
水相	イオン交換水	残余	残余	残余	残余	残余
	デヒドロ酢酸ナトリウム	適量	適量	適量	適量	適量
	モノステアリン酸ホリオキシエチレンソルビタン	1	1	1	1	1
	脱泡剤	適量	適量	適量	適量	適量
	分散剤	適量	適量	適量	適量	適量
	酸化鉄	10	10	10	10	10
	1,3-ブチレングリコール	3	5	7	5	5
	パチルアルコール	1	1	1	1	1
	ホリアクリル酸ナトリウム(*)	—	—	—	—	—
	イソブチルアルコール	3	3	3	3	3
	フェノキシエタノール	適量	適量	適量	適量	適量
	ベントナイト	3	3	3	3	3
	PVA	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
樹脂エマルジョン	アクリル酸アルキル共重合体(**)	20	20	20	25	30
油相	ショ糖脂肪酸エステル	10	10	10	10	10
	マイクロキスチンワックス	10	10	10	10	10
	カルナバワ	1	1	1	1	1
	ステアリン酸ソルビタン	1	1	1	1	1
	水添ホリソグテン	2	2	2	2	2
合計		100	100	100	100	100
目詰まり		△	○	○	○	△
カール力		△	△	○	○	◎
液付きのよさ(ホリューム)		△	△	△	△	△
なめらかさ		○	◎	○	○	△
乾きの早さ		○	△ (遅い)	× (遅い)	○	○

(*) アロンビス（東亜合成(株)製）

(**) ヨドゾール GH34F（アクゾノーベル(株)製）

[0036] ポリアクリル酸塩を配合しない場合、従来（比較例 3）より保湿剤量を増加させることにより目詰まりは防止できたが塗布後の乾燥が極めて遅くなり（比較例 6 及び 7）、保湿剤の配合量を抑制しつつアクリル酸アルキル共重合体の配合量を増加させても、優れたボリューム感は得られなかった（比較例 8 及び 9）。

[0037]

[表4]

		比較例 3	比較例 10	比較例 11
水相	イオン交換水	残余	残余	残余
	デヒドロ酢酸ナトリウム	適量	適量	適量
	モノステアリン酸ホリオキシエチレンソルビタン	1	1	1
	脱泡剤	適量	適量	適量
	分散剤	適量	適量	適量
	酸化鉄	10	10	10
	1,3-ブチレングリコール	3	3	3
	バチルアルコール	1	1	1
	ホリアクリル酸ナトリウム(*)	—	—	—
	イソプロピルアルコール	3	3	3
	フェノキシエタノール	適量	適量	適量
	ヘントナイト	3	3	3
	PVA	1.5	3	5
	樹脂エマルジョン			
油相	アクリル酸アルキル共重合体(**)	20	20	20
	ショ糖脂肪酸エステル	10	10	10
	マイクロクリスタリンワックス	10	10	10
	カルナバロウ	1	1.00	1
	ステアリン酸ソルビタン	1	1	1
水添ポリイソブテン		2	2	2
合計		100	100	100
目詰まり		△	○	○
カール力		△	△	△
液付きのよさ(ホリウム)		△	○	○
なめらかさ		○	○	○
乾きの早さ		○	△	× (遅い)

(*)アロンビス (東亜合成(株)製)

(**)ヨドゾールGH34F (アクゾノーベル(株)製)

[0038] ポリアクリル酸塩を配合しない場合、従来(比較例3)より水溶性高分子(PVA)の量を増加させることにより目詰まりは防止できたが、塗布後の乾燥が遅くなり、十分なカール力が得られなかった(比較例10及び11)

。

請求の範囲

- [請求項1] (a) 20～30質量%のアクリル酸アルキル共重合体エマルジョン、
- (b) 3～6質量%の保湿剤、及び
- (c) 0.1～0.4質量%のポリアクリル酸塩、
- を含有することを特徴とする睫毛用化粧料。
- [請求項2] (d) 0.5～6質量%の水溶性物質をさらに含む、請求項1に記載の睫毛用化粧料。
- [請求項3] 前記アクリル酸アルキル共重合体エマルジョンが、実分として化粧料に対して5～15質量%のアクリル酸アルキル共重合体樹脂を含む、請求項1又は2に記載の睫毛用化粧料。
- [請求項4] 前記保湿剤が、ジプロピレングリコール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ポリエチレングリコール400、及びグリセリンからなる群から選択される1種又は2種以上である、請求項1から3のいずれか一項に記載の睫毛用化粧料。
- [請求項5] 前記ポリアクリル酸塩がポリアクリル酸ナトリウムである、請求項1から4のいずれか一項に記載の睫毛用化粧料。
- [請求項6] 請求項1から5のいずれか一項に記載の睫毛用化粧料と、当該化粧料を収容する容器と、コーム型塗布具とを含んでなる睫毛用化粧キット。

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2014/050789

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A61K8/81(2006.01)i, A61K8/34(2006.01)i, A61Q1/10(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A61K8/81, A61K8/34, A61Q1/10

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2014
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2014	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2014

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y	JP 2008-273943 A (Kose Corp.), 13 November 2008 (13.11.2008), claims; paragraphs [0013], [0019], [0038] (Family: none)	1-5 6
X Y	JP 2007-153743 A (Kanebo Cosmetics Inc.), 21 June 2007 (21.06.2007), claims; paragraphs [0012] to [0013], [0018] to [0019], [0025], [0034] to [0036] (Family: none)	1-5 6
X Y	JP 11-79941 A (Noevir Co., Ltd.), 23 March 1999 (23.03.1999), claims; paragraphs [0007], [0010] to [0011], [0012] to [0015] (Family: none)	1-5 6

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
18 March, 2014 (18.03.14)

Date of mailing of the international search report
25 March, 2014 (25.03.14)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2014/050789

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2011-157289 A (Kao Corp.), 18 August 2011 (18.08.2011), claims; paragraph [0030] (Family: none)	6

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. A61K8/81(2006.01)i, A61K8/34(2006.01)i, A61Q1/10(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. A61K8/81, A61K8/34, A61Q1/10

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 4 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 4 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 4 年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X Y	JP 2008-273943 A（株式会社コーセー）2008.11.13, 特許請求の範囲, 段落【0013】、【0019】、【0038】（ファミリーなし）	1-5 6
X Y	JP 2007-153743 A（株式会社カネボウ化粧品）2007.06.21, 特許請求の範囲, 段落【0012】 - 【0013】、【0018】 - 【0019】、【0025】、【0034】 - 【0036】（ファミリーなし）	1-5 6

☒ C 欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

1 8 . 0 3 . 2 0 1 4

国際調査報告の発送日

2 5 . 0 3 . 2 0 1 4

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（I S A / J P）

郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

松本 直子

4 D

9 5 4 6

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 4 2 1

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X Y	JP 11-79941 A (株式会社ノエビア) 1999.03.23, 特許請求の範囲, 段落【0007】, 【0010】 - 【0011】, 【0012】 - 【0015】 (ファミリーな し)	1-5 6
Y	JP 2011-157289 A (花王株式会社) 2011.08.18, 特許請求の範囲, 段落【0030】 (ファミリーなし)	6